

魔法の wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：佐藤 直幸

所属：狛江市立緑野小学校

記録日： 2020年 2月 11日

キーワード：読み書きの困難 自信と意欲の回復

【対象児の情報】

○学年 小学3年生 ○障害名 ◎読み書きの苦手さ ■注意・集中の難しさ

○困難の内容

- ・目や体【微細運動】の動かし方の不器用さから読み書きの速度が遅く、負担感が大きい。
- ・集団と同じペースでの活動が難しいことから、自己肯定感が低い。

【活動目標】

- ① 自分にあった学習の方法を広げる。
- ② 他者から評価される経験を通して自分を知り、肯定感をもつ。

○実施期間 2019年4月～2020年2月

○実施者 佐藤 直幸 ○実施者と対象児の関係 特別支援教室 担任

【活動内容と対象児の変化】

1. 対象児の事前の状況

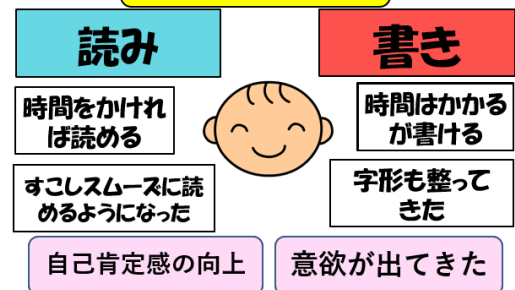
[児童の状態]

- ・読みと書きに苦手さがあるものの、支援を通して負担感は少なくなってきている。
- ・目の動かし方は支援前と比較してスムーズに動くようになってきているものの、ぎこちなさは残っている。手先や体の不器用さがある。
- ・集中の持続が難しく疲れやすい。
- ・失敗に弱く、できないと思うとすぐにあきらめてしまう。
- ・授業中にみんなと一緒に学習に取り組むことが難しい。
- ・URAWSS は二年生の時と比較して読みは向上してきている。書く速度は周りの児童と開いてきている。
- ・学習に対する負担感が減ってきていることから学習意欲も2年生のころと比較して出てきている。

対象児童 Tくん

・小学3年生
・週2回 2時間

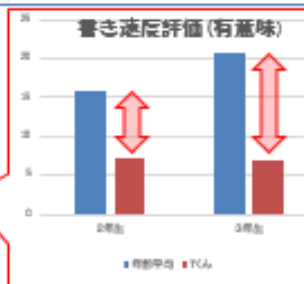
現在の状況



とはいえ…

URAWSS の結果

課題の種類	評価
書き課題 (有意味)	C
書き課題 (無意味)	C
読み課題	C



ほぼB。流暢性は上がっている

予想される困難



高学年では

- ・書く量が増える
- ・周りとの違いに気づく
- ・自分の苦手さと向き合う

授業の進度についていくことが難しい
他者との違いに葛藤が生じる可能性

読みは速度が上がってきているものの書きが難しい。 周りとの差が開いていく可能性があり困難が予想される。

[読みの実態]

- ・徐々に読む速度は上がってきている。
- ・学年相応の漢字は読めるようになってきている。正しい漢字を分別することもできるようになってきている。
- ・文章も勝手読みや誤って読むことが減り、正確に読めるようになってきている。
- ・テストを最後まで解くことには負担感が残っている。
- ・語彙が増えたことで内容を理解できるようになってきている。

目の動きについて



目の動きが向上している

目の動きは向上しており、読みの速度も出てきている。

読みについて

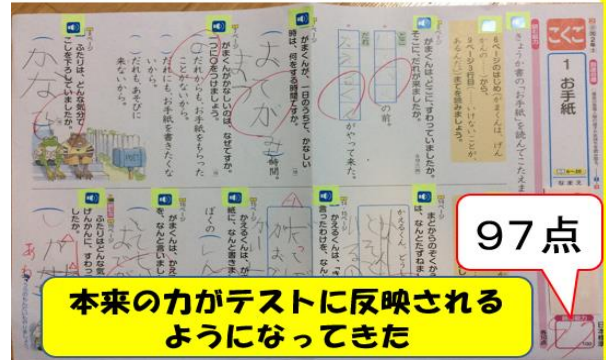
実態

- ・読みの速度が出てきたが量が多いと負担感がある
- ・漢字は選べるようになってきた
- ・音と文字も一致できつつある
- ・音声で聞くと内容が理解できる



読みのペースはできてきた
できることを広げる

支援後の状況



本来の力がテストに反映される
ようになってきた

2年生の時には音声読み上げの支援を受けていた。
読みが安定してきたため今は支援なしで受けている。

[書きの実態]

- ・字形は少しずつ整ってきている。
- ・文字を書く速度もTくんなりに早くなっているものの、周りとの差が開き始めている。
- ・学年相応の漢字も正しい漢字を選択できるようになってきている。
- ・板書やワークシートは量を調整してもらっている。
- ・文章を書いた経験が少ない。
- ・漢字や文字を書くことに負担感は訴えなくなっているものの、皆と同じペースで取り組むことは難しい。

代替は必要？

字の形は整ってきているものの…

URAWSS の結果

3年生の状況

課題の種類	評価
書き課題 (有意味)	C
書き課題 (無意味)	C

- ・手先の不器用さがある。
- ・書きの速度は依然として困難が大きい。
- ・運動機能の向上により今後改善されるかもしれないが未知数。

書きの速度が遅く、代替手段を使うことも検討する必要がある。

書きについて

実態

- ・文字は少しずつ書けるようになってきている
- ・字形も整ってきている
- ・書きの速度は依然として遅い
- ・書く量を調整すればできる



徐々に書けるようにはなっているものの、依然として難しい

表出の方法を増やす

紙に書く支援



書きの代替手段の獲得



将来必要になったときに
選べるように

紙に書く支援と並行して表出の選択肢を増やすようにする。

【活動の具体的内容】

① 自分にあった学習の方法を広げる。

○読み

◇自己解決の手立てとして音声補助の使い方を習得する。

→検索ツールの使い方やアクセシビリティの使い方を教える。

○書き

◇鉛筆以外での表出する手段を広げるための方法の一つとして

物理キーボードでの入力⇒物理キーボードを入力するための前段階としてローマ字を習得する。

アルファベットカード ⇒アルファベットカードを用いて音と文字の一致を行う。

キーボード入力やフリック入力を活用する場を設定する。

② 他者から評価される経験を通して自分を知り、肯定感をもち。

Fututube (他者を意識した動画作成)

⇒自分の発表の様子や説明の様子を客観的に捉える。

また他者に伝わりやすい表現を考えながら編集する中で粘り強く取り組む力やわかりやすい表現力を養う。

⇒他者の困っていることにアドバイスしたり、評価を受けたりする中で自己肯定感をもてるようにする。

⇒紹介するために、学習しやすい様々な方法を試していく。その際に自分に合った方法やその理由を考え、自己理解を深める。

【対象児の事後の変化】

① 自分にあった学習の方法を広げる。

○自分の調べたいものを調べる方法を知る。

◇検索ツールの活用法とアクセシビリティの活用

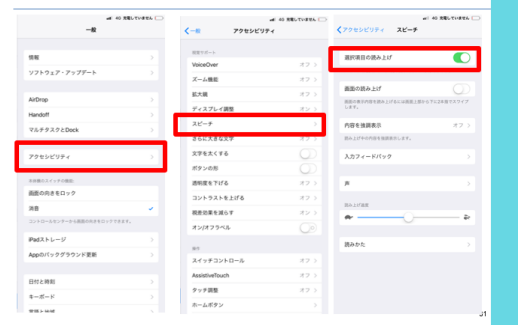
Tくんにはもともと文字から情報を得ることの困難さから文章に書いてあることがわからずに、調べたいものが調べられないという困りがあった。2年生の時の支援で語彙を増やしたことで、音声で聞く方法を習得したことで、聞けば内容が徐々に理解できるようになってきている。音声で聞く方法を学習以外の場面でも活用することで余暇を充実させたり、知識を増やしていったりすることをねらいとして活動を行った。まずiPadのアクセシビリティから選択したものを音声で聞けるように設定した。全画面の情報を読み上げる機能と選択した部分を読み上げる機能を試したが、Tくんとしては余計なところまで読んでもらう全画面の読み上げは使いにくかったようで選択した部分を読み上げる機能のほうを好んだ。自分の好きなUMA(未確認生物)の名前を音声入力で検索サイトに入力し、説明を聞いて楽しむことができた。調べて音声で聞く方法はすぐに習得することができていた。

検索ツール⇒yahoo あんしんネットやgoogleの検索方法を教える。

アクセシビリティ⇒音声読み上げの機能の活用方法を教える。



音声読み上げの設定



音声読み上げの設定方法

- ① iPad の設定からアクセシビリティを開く。
- ② アクセシビリティの中からスピーチを選択する
- ③ 音声読み上げのタブをオンにする。
この設定を行うことで選択した項目を音声で読み上げてもらえるようになる。また速度や声も調整することができる。

○自分の考えを表出する方法を広げるために

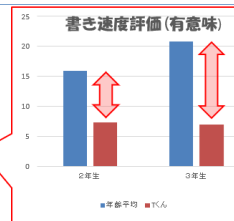
2年生の時の支援や運動機能が向上してきたことから書きについても、字形が整ってきている。書きの速度が向上してきているなどTくんなどの成長が見られてきている。しかし学年の児童と比較すると書きの速度は遅く、授業についていくことが難しくなると予想された。

将来必要になったときに書く方法と書き以外の方法が選択して活用できるように、キーボードでの入力を練習していくことにした。

とはいえ…

URAWSSの結果

課題の種類	評価
書き課題 (有意味)	C
書き課題 (無意味)	C
読み課題	C



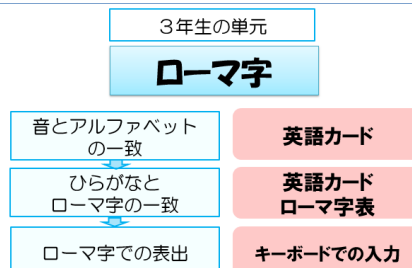
ほぼB。流暢性は上がっている

◇ローマ字を習得する。

① 音とアルファベットの一致

英語のカードを担当が読み、正しい文字のほうを選択する練習を行った。最初はルビ付きのカードを用いて、2択から選択する形で練習をした。徐々にルビを外していったり、選択肢を増やしていったりするなどしていきながら練習に取り組んだ。アルファベットはすぐに覚えることができ、ルビがなくても聞いた音がどのアルファベットを指すものなのかを捉えることができていた。

キーボード入力をするために



音とアルファベットの一致

英語カード

音とアルファベットの一致

2択から選ぶ(ルビあり)

2択から選ぶ

複数から選ぶ(ルビあり)

複数から選ぶ

負荷を調整しながら取り組んだ。すぐに覚えることができた。

活動「えいごカルタ」



複数の中から正しいアルファベットを選択することができている。

② ひらがなとローマ字の一致

アルファベットが覚えられた時点でひらがなとローマ字を一致させる練習に取り組んだ。まずは「あ」「い」「う」「え」「お」の母音を何度も繰り返し練習した。母音を意識させるためにほかの文字を教えるときにも「A」「I」「U」「E」「O」のカードを常に置きながら確認した。またローマ字表を常に横に置いておき、いつでも正しい文字を確認できる環境にしながら取り組んだ。教えた文字に関してはすぐに覚えることができており、キーボードでの入力もたどたどしくはあるものの入力することができるようになってきている。

ひらがなとローマ字の一致



◇上記の活動を通して

アルファベットと音の一致はできており、ローマ字とひらがなの一致もできてきている。今後はローマ字の完全習得を目指し、取り組みを継続していく。

② 他者から評価される経験を通して自分を知り、肯定感をもち。

○自分のことを客観的に捉えるための活動「Futatube」

Tくんは話をすることや関わるのが好きだが、つい自分の好きなものを一方的に話してしまったり、整理して相手にわかるように伝えたりすることが難しい時がある。また友達に話が通じないと、「なんでおいらの話をきいてくれないの!」とイライラしてしまうことがある。ふりかえりの際に解説をしても、「そんな感じだったっけ?」といまいち自分のことをうまくとらえることが難しい様子も見られていた。そのため、自分の伝え方を客観的に捉えたり、整理して相手に伝えたりする経験を積むために動画づくりの活動に取り組むことにした。またTくんも誰かに紹介したり、人の役に立つことは大好きで、意欲をもって取り組むことができる。自分の意欲が向いた活動で、肯定的な評価を得られれば、Tくんの自信につながるとも考えた。

○「Futatuber」になろう!

特別支援教室の名前であるふたば教室から名前を取り、「Futatube」という活動を設定した。コンセプトは困った人を助けるFutatuberになろう!というものであり、ふたば教室に通っている子達の困っていることや悩んでいることを集めて、アドバイス動画を作成することにした。

Tくんはyoutubeが大好きで毎日観ている。自分もあこがれのyutuberのようなことができるということで、意欲をもって活動に取り組んでいた。低学年で文字や漢字を書くのに困っている子の事例を紹介し、Tくんと一緒にどうやればその子が勉強しやすくなるかを一緒に考えた。

Tくんが以前使ったアプリである「国語海賊」を紹介することにした。1作目の動画は一発撮りで見返して編集するなどはせず、動画自体も余分なシーンが多く、まとまった内容にすることはまだ難しいようだった。それでも困っている子からは「ありがとう」と伝えてもらった。感謝されたことがうれしかったようで、「次はもっといい動画をつくる!」と意欲が出たようだった。

○動画づくりを広げる

特別支援教室の中で特設コーナーを作り、作成した動画を見られるようにした。そこにお悩み相談シートも置き、みんなの困っていることや悩んでいることを集めるようにした。シートに書かれている悩みに対してのアドバイス動画をつくり、紹介した。2作目、3作目になると徐々に見返しながら編集したり、終わりにメッセージを入れたりするなど工夫をするようになってきた。「何年生がみるんですか?」「この子わかるかな?」など相手を考えた発言も増えてきた。

関わりについて

実態

- ・話をするのは大好き
- ・一方的に話をしてしまうことがある
- ・整理して話をするのが難しく、話題が転換しがち
- ・話が通じないと思うとすねた態度をとることもある



相手にわかりやすく伝えることが苦手

支援の方向性

相手を意識して伝えられるように

- ・話を整理して伝える経験を積む
- ・他の人から自分の説明についてフィードバックをもらう
- ・自分の伝え方を客観的に捉える

動画を活用していく

動画で説明しよう【Futatube】

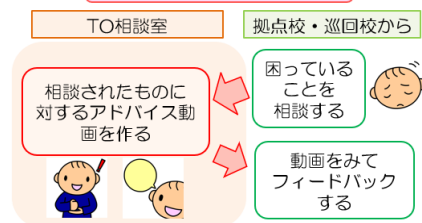
Futatuberになろう



- ・「伝える人」を意識した動画を作る中で他者に対する意識をもつ
- ・誰かの役に立つ経験をするなかで自己肯定感をもつ
- ・編集や伝え方を工夫する中で、粘り強く取り組む力を身につける

動画で説明しよう【Futatube】

Futatuberになろう



T0相談室【Futatube】



依頼が増えてきた

〇いろいろな人から認められる経験を積む

様々な人から認められる経験を積むために、作成した動画を様々な人から評価をしてもらえるようにした。特別指導室の児童以外にも教育委員会や専科の先生、共同研究者の勤務校などにも作成した動画を見てもらい、肯定的な評価をフィードバックしてもらうことにした。5作目にもなると、見る人のことを考えて内容を焦点化したり、構成も端的にまとめ見やすくしたりするなど工夫がみられた。また、修正する際にも粘り強く取り組み、最後まで完成させることもできるようになっている。

校長先生には直接プレゼンテーションをし、「これすごいね!」と肯定的な評価をもらうことができた。その後、校長先生が紹介された動画の中にあった支援グッズを学校の予算で購入してくれたこともT君の中ではうれしかったようであった。

動画の変移 (1作目から5作目)

活動① 漢字が苦手な人へアドバイスを送ろう 	活動② えんぴつをもつのが苦手な人へ 			小3 漢字ドリル 
・見返しはしていない ・余計なシーンが多い ・構成△ ・工夫△	・少し見返す ・焦点化しはじめる ・構成△ ・工夫を始める	・見返し、修正する ・見る人のことを考え始める ・比較などの工夫あり	・粘り強く修正 ・動画に文字を入れる ・見る相手を考慮 ・端的にまとめる	・画面収録機能を使う。 ・誰にとってもわかりやすく説明する

すごいね!

フィードバック

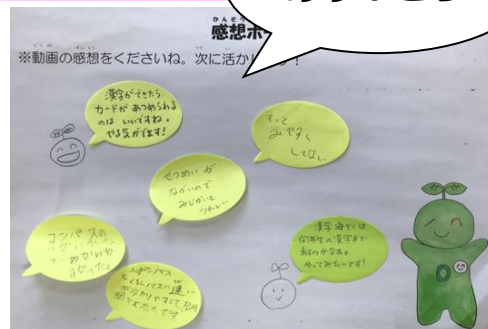


校長先生へのプレゼン



学校の予算で使いやすいコンパスを購入してもらうことになった

ありがとう



〇Tくんの変化

以前は自分のことを「おいらはばかだ」と伝えてくるなどネガティブな発言もあったが、ポジティブな発言が多くなり、笑顔も増えてきている。また苦手な課題に当たったときには以前は途中であきらめてしまい、取り組まないこともあったが、「できるところはやってみる!」と粘り強く取り組むようになった。

家では自らお母さんに「振り返りノート作りたい!」と伝え、自分の良かったことや改善していきたいことを記録するようにもなっている。



- ・笑顔が増えてきた
- ・ポジティブな発言が多くなってきた
- ・学習にも粘り強く取り組もうとする姿が見られてきた

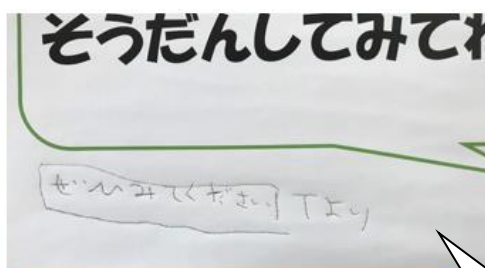
自信と意欲が向上してきた

【報告者の気づきとエビデンス】

☆様々な人から認められた経験により自己肯定感が向上したことや、自分なりの方法を手にしたこと
 とで学習にも粘り強く取り組むことができるようになったのではないかと考えている。

◇動画活動のエピソードから

動画活動の開始当初に対象児のクラスの子がふたば教室にくることがあった。その際には自分の動画のコーナーを「みないで〜！」と隠す様子があった。支援を続ける中で様々な人に「すごいね！」「ありがとう！」「やりやすくなったよ！」などの評価を受けるようになった。
 校長先生にプレゼンテーションをした後には「ぼくにもできることがあるんだあって思いました」「沖縄の子とかにも見てほしい！」など自分の動画を他の人にも見てほしいと伝えてくるようになった。特設コーナーに自分で「ぜひみてください！」と書き込み、自分からアピールする様子が見られた。自分で試行錯誤して作ったものが他者から評価されることにより、自信につながり、より良いものを作ろうとする意欲になったと考えている。また粘り強く取り組んで成功した経験が、学習やほかの事へも取り組んでみようという気持ちにつながったのではないかと考えている。



沖縄の子とかにも
見てほしい！

**自分から見てもらいたいと
伝えてくるようになった**

1 学期では…

**UDの授業でふたばに
クラスの人たちが見学にきた**



見ないで〜！！



失敗だったかな…

〇〇



活動を続ける中で

やってみたい！
ありがとう！

コンパスできるように
なったよ！ありがとう！

すごいね！



やりやすくな
りました！

いろいろな人から認められる

ぜひみてください！Tより

自分の中で納得いく作品に昇華できたことにより、他の人にも見てほしいと思えたのだと考えている。

◇自信と意欲を高める必要性

自信と意欲は学習を積み上げるためのベースとなる
 「学びに向かう力」を高める上でも重要だと考えている。
 今回の実践では動画作成というフレームを活用して対象児の良さを実感させることができた。今後も対象児の良さやもっている力を大事にしながら、自分の良さに気づき、力を伸ばしていけるように支えていきたい。

自分で学べるに必要なもの

自己理解

- ・客観的に捉える
- ・自分の良さを知る
- ・学び方を知る

学ぶ方法

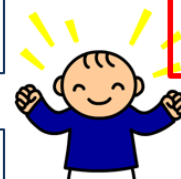
- ・やりやすい手段をもつ
- ・学びのスキルを習得する

意欲・自信

- ・人の役に立つ
- ・肯定的な評価を得る

学びに向かう力

- ・試行し、次にどうすればいいかを考える



**本人の良さを周りに伝え、
認められる場を作ることが大事**

